

# MEXTAGE

## 第54期 中間 株主通信

2022年1月1日から2022年6月30日まで

[P.1 2022年 中間期の業績振り返りと今後の事業戦略](#)

[P.3 2022年 中間期の業績を教えてください](#)

[P.4 EVENT オンライン会社説明会、QA](#)

[P.5 財務指標](#)

[P.6 会社概要、株式の状況](#)

### 経営理念

わたしたちは「独創の技術」「信頼の品質」  
「万全のサービス」を信条に、自由に着想し、  
グローバルな事業活動を通して界面価値創造を  
実現することで豊かで潤いのある社会と  
環境づくりに貢献します。





社長に聞く!

# 2022年 中間期の業績振り返りと 今後の事業戦略



代表取締役社長

前田和夫

## 成長を続ける半導体パッケージ市場に向けて 最先端プロセスの開発に注力

### データセンター・サーバー関連の 通信インフラ投資が拡大

当中間期の世界経済は、オミクロン変異株の感染拡大やロシアによるウクライナ侵攻長期化の影響で回復基調とはならず、中国のゼロコロナ政策による経済の停滞やサプライチェーンの混乱、世界的な資源・エネルギー価格の上昇を背景にしたインフレ圧力も、下振れ要因となりました。

こうした世界の経済環境が不透明感を増す中でも、半導体関連市場は底堅い成長を続けました。コロナ禍の在宅需要で増加していたパソコンやディスプレイ、タブレット端末の出荷台数は減少に転じましたが、デジタルトランスフォーメーション(DX)\*への投資や5Gの進展でデータ通信量が飛躍的に増大。データセンターのサーバー等通信インフラへの投資が拡大しました。車載用等一部で半導体の供給不足も見られましたが、半導体関連業界全体で積極的な投資が進んでいます。

今後、5Gネットワーク環境が拡充され、AIやIoT、AR/VR(拡張・仮想現実)技術、エッジコンピューティング\*等の活用や進展で、半導体産業はさらに成長・拡大し、当社の業績にも大きく寄与するものと考えています。

### ■ 旺盛なサーバー需要で「CZシリーズ」が好調

テレワークの浸透や5Gの普及等で、インターネット上のデータ通信量が飛躍的に増大し、サーバー/データセンター関連機器に搭載されるパッケージ基板の需要が大きく伸びたことから、こうした基板の銅表面処理での独占的シェアを持つ密着向上剤「CZシリーズ」が好調でした。

### ■ 密着向上剤「V-Bondシリーズ」は堅調、 ディスプレイ向け「EXEシリーズ」、 「SFシリーズ」は減少

多層電子基板向け密着向上剤「V-Bond」シリーズは、半導体不足による自動車減産の影響も多少はありましたが、電装化による基板需要の拡大で、堅調に推移しました。ディスプレイ向けエッチング剤「EXEシリーズ」や「SFシリーズ」は、コロナ禍の巣ごもり需要の反動や在庫調整の影響を受けて減少しました。

## 半導体不足の業績への影響について

当社への影響はほぼないと考えています。というのも、当社は特に先端領域に強みがあり、事業に関わりが深いのは、データセンターやスマートフォン、パソコン向けのハイエンド半導体です。供給不足は産業用・自動車用の汎用的なレガシー半導体で、ハイエンド半導体の生産が優先され、レガシー系半導体の生産の枠取りが不足していることが要因と考えられるからです。

## 今後の研究開発や経営課題への取り組み

研究開発では、従来から半導体を実装するパッケージ基板のハイエンド領域を重視しており、そこを深掘りして開発を進めることで、顧客が最先端分野を実現できるよう取り組んでいます。また、中期経営計画で掲げている事業分野ごとの経営課題のうち、技術面で一番注力しているのは、「機械密着」から「化学密着」という技術変化への対応です。このほか当社が後工程で今までやっていなかった半導体そのものに近い領域での開発、AIを活用した新事業の立ち上げや、開発・生産への応用も検討しています。

生産とロジスティクスについては、これまでのグローバル生産戦略を再構築して、安定して原材料を調達できる供給体制、安全で人の手間をかけない生産体制の確立に努めてまいります。

## 通期の見通しと配当政策

当社は持続可能な成長のためにも、人的資本を充実させる政策を取り、人財投資を積極的に行っていく方針です。為替変動につきまちは、円安傾向に動きますと、当社の業績を押し上げる方向に影響を及ぼします。配当政策につきまちは、従来どおり安定配当を基本に、連結配当性向30%を目標においております。

## 株主の皆様へのメッセージ

世界の経済情勢は先行き不透明感が強い状況が続いていますが、世界有数の半導体メーカーが巨額な設備投資を行い、当社の顧客となる半導体を実装するパッケージ基板メーカーも次々と設備投資計画を発表しています。世界の半導体市場は、中長期的にはさらに成長を続け、それに追随するようにパッケージ基板市場も拡大していくものと見込んでいます。当社はこれからも、この成長市場を下支えし、社会に貢献できるよう鋭意取り組んでまいり所存です。株主の皆様におかれましては、中長期的な視点で見守っていただき、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



詳細はホームページ掲載の決算短信をご覧ください。

[www.mec-co.com/ir/library/](http://www.mec-co.com/ir/library/)



## 2022年 中間期のポイント

押さえておきたい2022年 中間期のポイントを2ポイントにまとめています。ぜひ参考にご覧ください。

### 1 過去最高の収益を更新

### 2 旺盛なサーバー需要で「CZ シリーズ」売上が引き続き好調



## 2022年 中間期の実績

	2021年 12月期 中間期	2022年 12月期 中間期	増減
	2021年1月1日~ 2021年6月30日	2022年1月1日~ 2022年6月30日	
売上高 (百万円)	7,024	8,127	15.7% 増 ↑
営業利益 (百万円)	1,949	2,084	6.9% 増 ↑
経常利益 (百万円)	2,023	2,374	17.4% 増 ↑
親会社株主に 帰属する四半期 純利益 (百万円)	1,466	1,661	13.3% 増 ↑
1株当たり 四半期純利益 (円)	77.25	87.40	

## 用語解説

### ■ デジタルトランスフォーメーション (DX: Digital transformation)

デジタル(IT)技術による生活やビジネスの変革

### ■ エッジコンピューティング

利用者や端末の近くに処理装置(エッジプラットフォーム)を分散配置して、ネットワークの端点でデータ処理を行う技術



### 業績推移と製品別、セグメント別販売動向について

**Q** 当中間期の事業環境と業績について教えてください

**A** サーバー向け需要が好調  
ディスプレイ向けは低調でした

当社グループの関係市場である電子基板・部品業界は、エレクトロニクス業界の影響を受けて、データセンターのサーバー向けが好調に推移し、とりわけ当社と関連が深い半導体を搭載するパッケージ基板において需要が拡大しました。電子基板は、IoT、AI、5G等の技術の広がりを背景に、高密度化や技術革新が進み、これら関連市場は引き続き高い成長が見込まれています。移動通信システムは高速大容量の5Gへの切り替え、拡充に向けた動きが活発化し、次世代データセンター用の高性能パッケージ基板向けの設備投資も進展しました。

このような環境のもと、当社グループでは高密度電子基板向けの開発、販売に注力いたしました。超粗化系密着向上剤「CZシリーズ」は、サーバーの需要やパッケージ基板の大型・多層化により好調。多層電子基板向け密着向上剤「V-Bondシリーズ」は、自動車の減産はあったもののEV化の促進等により堅調。ディスプレイ向け「SFシリーズ」「EXEシリーズ」については、関連する電子機器の需要に鈍化が見られ減少しました。

その結果、当中間期の売上高は81億27百万円(前年同期比15.7%増)、営業利益は20億84百万円(同6.9%増)、売上高営業利益率は25.6%(同2.2ポイント減)、経常利益は23億74百万円(同17.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は16億61百万円(同13.3%増)となりました。

**Q** 製品別の販売状況を教えてください

**A** CZは需要の拡大が継続

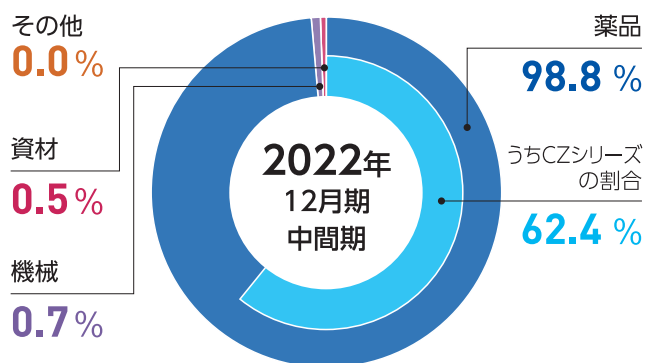
「CZシリーズ」の売上高は50億13百万円(前年同期比29.5%増)、薬品売上高に占める割合は62.4%(同6.6ポイント増)でした。「V-Bondシリーズ」は4億14百万円(同11.3%増)、「EXEシリーズ」は6億68百万円(同21.9%減)、「SFシリーズ」は4億50百万円(同20.7%減)でした。

**Q** 地域別の販売動向はいかがでしたか?

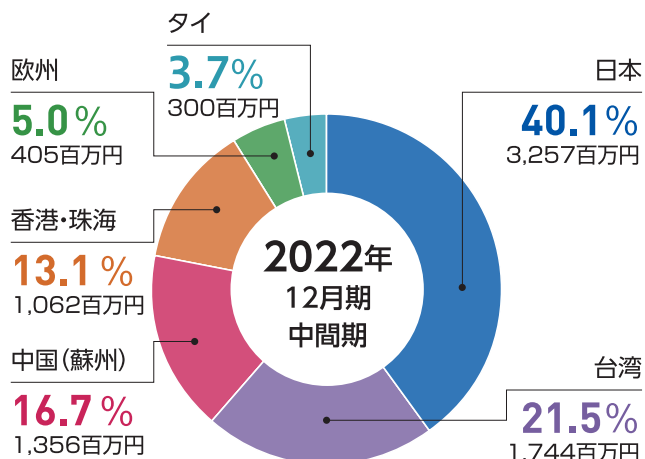
**A** 全ての地域で売上が増加

海外売上高比率は61.3%(前年同期比4.8ポイント増)となりました。日本ではサーバーに関連する製品が好調に推移、国内代理店経由で販売している韓国向けはパソコンやディスプレイに関連する当社製品に鈍化傾向が見られたものの好調でした。台湾ではディスプレイ関連製品は鈍化したものの、サーバーに関連する製品が好調に推移しました。中国では一部で都市封鎖の影響がみられ、香港・珠海は自動車やスマートフォンの生産が鈍化、中国(蘇州)でも顧客の生産活動に一部影響があったものの、サーバーやスマートフォンが堅調でした。欧州は感染症の影響が改善し、顧客の生産活動に持ち直しの傾向がありました。タイは新規顧客の生産が立ち上がりつつあり、順調に推移しました。

売上高に占める品目別割合 (%)



地域セグメント別売上高比率 (%) / 売上高 (百万円)



\*比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

## 株主の皆様とのコミュニケーションを継続するため、 今後もさまざまな形式での説明会を検討していきます。

当社は、2022年4月11日～5月31日にオンライン会社説明会動画をホームページに掲載いたしました。

多くの方々にご視聴いただき、誠にありがとうございました。動画では、社長から、会社概況や事業、経営・財務状況、ESGへの取り組み、そして2022年2月に策定した中期経営計画などを説明いたしました。また、株主の皆様から事前に頂戴したご質問に回答させていただきました。

現在、新型コロナウイルス感染症の状況と安全確保を踏まえ、株主の皆様に向けた対面での説明会を見合わせておりますが、今後も、コミュニケーション継続のため、さまざまな形式での開催を検討してまいります。



代表取締役社長 前田和夫

## 事前にいただいた質問と回答

### Q.主要製品について

#### A. 「CZシリーズ」

パッケージ基板\*1に使われる銅表面処理剤。一部製造工程において世界シェアをほぼ独占。電子基板の熱での剥がれによる故障を防ぐ目的で使用されています。関連する主な電子機器は、サーバーやパソコン、スマートフォンです。

#### 「V-Bondシリーズ」

一般的な多層電子基板に使用される銅表面処理剤。電子基板の熱での剥がれによる故障を防ぐ目的で使用されています。関連する主な電子機器は、スマートフォンや車です。

#### 「EXEシリーズ」

フレキシブル基板\*2に使われる銅処理剤です。細かい金属(銅)配線を作る目的で使用されています。関連する主な電子機器はテレビなどのディスプレイです。

#### ■ メックが活躍する市場

今後、電子機器の増大にともない  
さらなる需要の拡大が期待されます。



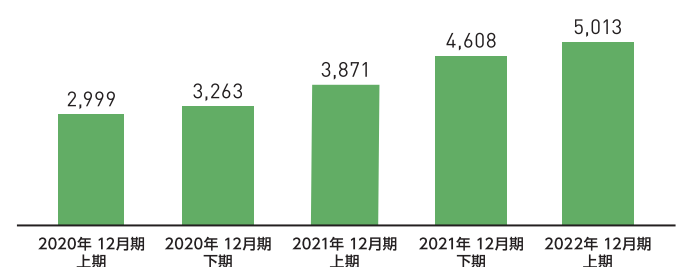
\*1 パッケージ基板：CPU等の半導体を電子基板へ接続するための基板

\*2 フレキシブル基板：ポリイミドフィルムなどの柔軟性のある材料で作られる基板

### Q.今後の市場について

A. 今後も5Gやビッグデータ、AI、車の自動運転等、デジタル化社会が進展するなか、それらを支える重要基盤である、半導体市場もますます高度な技術が求められ、さらなる市場の成長・拡大が考えられています。そのような外部環境において、「CZシリーズ」は高品質なネットワーク環境を実現するために必要不可欠な製品であり、需要も高まっています。当社はこれからも、「CZシリーズ」を中心に情報インフラを支え、社会に貢献する製品を提供してまいります。

#### ■ CZシリーズの売上(百万円)



説明会の要旨はウェブサイトからご覧いただけます。

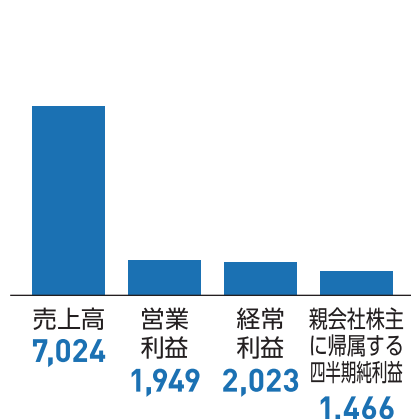
[https://www.mec-co.com/ir/library/pdf/tekijikaiji/20220331\\_setsumeikai.pdf](https://www.mec-co.com/ir/library/pdf/tekijikaiji/20220331_setsumeikai.pdf)



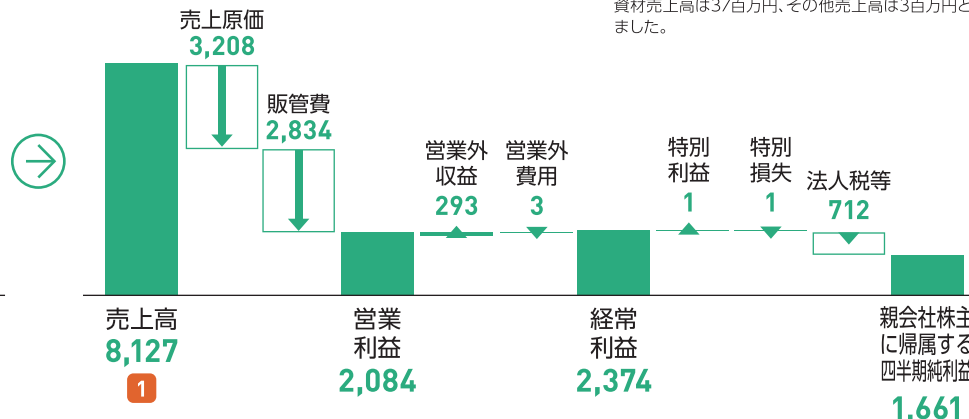


## 連結損益計算書の概要 (百万円)

2021年12月期 中間期  
 (2021年1月1日～2021年6月30日)



2022年12月期 中間期  
 (2022年1月1日～2022年6月30日)

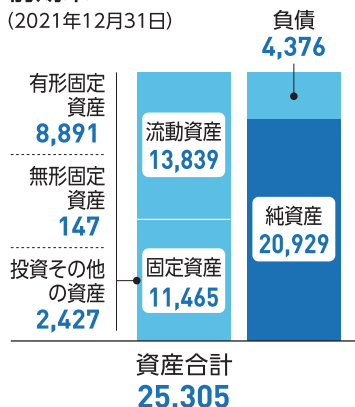


### 1 売上高

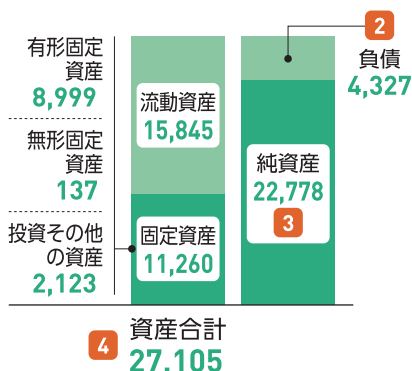
薬品売上高は80億32百万円、機械売上高は54百万円、資材売上高は37百万円、その他売上高は3百万円となりました。

## 連結貸借対照表の概要 (百万円)

前期末  
 (2021年12月31日)

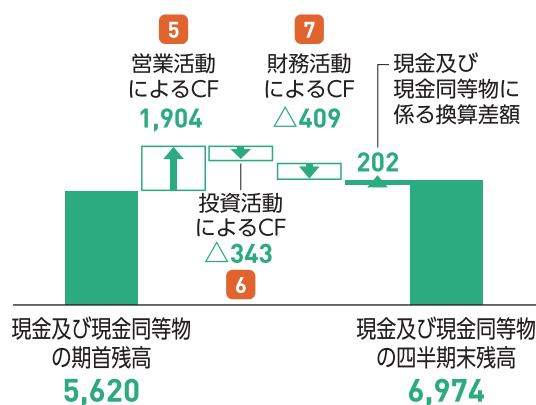


2022年12月期 中間期  
 (2022年6月30日)



## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (百万円)

2022年12月期 中間期  
 (2022年1月1日～2022年6月30日)



### 2 負債

負債は、支払手形及び買掛金が増加したものの、未払法人税等や繰延税金負債の減少等により48百万円減少し、43億27百万円となりました。

### 3 純資産

純資産は、利益剰余金や為替換算調整勘定の増加等により18億49百万円増加し、227億78百万円となりました。

### 4 資産合計

資産は、増収による現金及び預金や受取手形及び売掛金の増加等により18億円増加し、271億5百万円となりました。

### 5 営業活動によるCF

営業活動の結果得られた資金は19億4百万円。これは主に税金等調整前四半期純利益が23億74百万円、減価償却費が3億67百万円、法人税等の支払額が7億64百万円あったこと等によるもの。

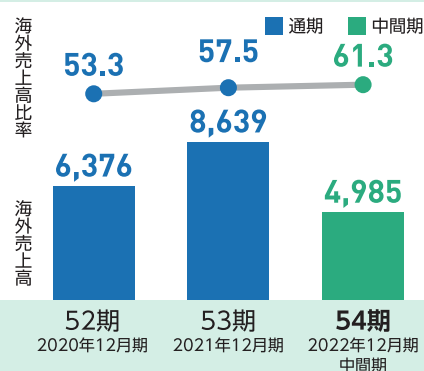
### 6 投資活動によるCF

投資活動の結果使用した資金は3億43百万円。これは主に有形固定資産の取得による支出が2億92百万円あったこと等によるもの。

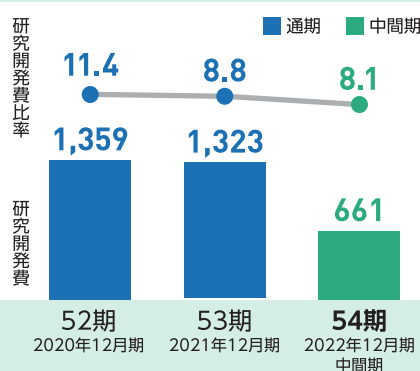
### 7 財務活動によるCF

財務活動の結果使用した資金は4億9百万円。これは主に配当金の支払いが4億2百万円あったこと等によるもの。

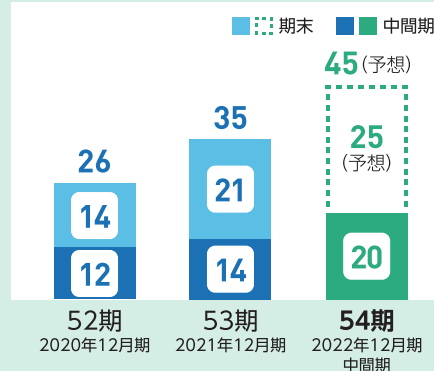
## 海外売上高(百万円)／比率(%)



## 研究開発費(百万円)／比率(%)

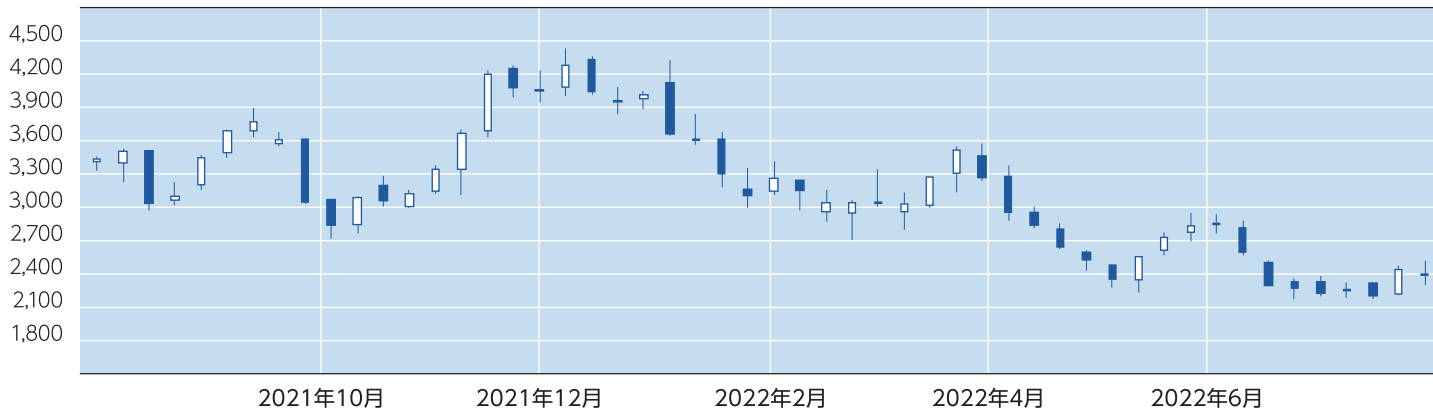


## 1株当たりの配当金(円)









株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
期末配当金 受領株主確定日	毎年12月31日
中間配当金 受領株主確定日	毎年6月30日
定時株主総会	毎年3月
単元株式数	100株
株主名簿管理人 および特別口座 の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株式名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話照会先※	TEL. 0120-782-031 (通話料無料)
インターネット ホームページURL	www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場
証券コード	4971
公告の方法	電子公告により行う。 公告掲載URL <a href="http://www.mec-co.com/ir/denshi/">www.mec-co.com/ir/denshi/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

株主優待情報

保有株式数	優待内容	※毎年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式100株(1単元)以上保有の株主様を対象といたします。
1,000株未満	QUOカード 1,000円分	
1,000株以上	QUOカード 2,000円分	

株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会

1. 証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
2. 証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記電話照会先※までご連絡ください。



メック株式会社

本社事務所 / 〒660-0822 兵庫県尼崎市杭瀬南新町三丁目4番1号  
TEL. 06-6401-8160 FAX. 06-6401-8165

URL [www.mec-co.com/](http://www.mec-co.com/)

ニュースメール配信サービスのご案内

当社では、ホームページにニュースリリースや新しいコンテンツが掲載された際に、ご登録者の皆様にそのタイトルとURLを電子メールにてお知らせするサービス(ニュースメール配信サービス)を行っています。  
ご希望の株主様には、こちらのサービスの送信先メールアドレス(携帯電話のメールアドレス不可)を、当社ホームページまたは、RIMSNET ([rims.tr.mufig.jp/](http://rims.tr.mufig.jp/)) から、簡単にご登録いただけます(無料)。

アンケートのお願い

当社では、株主の皆様とのよりよいコミュニケーションを目指し、今後も業績情報の開示の充実に努めていきたいと考えています。  
つきましては、この株主通信に対するご意見、ご感想をお聞かせいただきたくアンケートにご協力をお願いいたします。  
※ご提供いただきました情報は、本アンケートの集計の目的以外に使用することはありません。

ホームページのご紹介

[www.mec-co.com/](http://www.mec-co.com/)

当社のホームページではプレスリリース、株主通信、サステナビリティ報告書、コーポレート・ガバナンス報告書 他各種情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

